

ease. Yokohama, Japan.

11) Uchiyama, T., and Ogawa, M. 2011. Coinfection of pathogenic and nonpathogenic rickettsiae. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (XIII International Congress of Bacteriology and Applied Microbiology [兼 第84回日本細菌学会総会]), Sapporo, Japan.

12) Uchiyama, T., Kishi, M., and Ogawa, M. 2011. Restriction of the growth of a nonpathogenic spotted fever group rickettsia. 6th International meeting of Rickettsiae and rickettsial Diseases. Jun. 2011, Crete, Greece

13) Wuritu, Wu, D., Yoshikawa, Y., Furukawa, E., Murakami, T., Minato, C., Kawamori, F., Ohtake, M., Ohashi, M., and Ohashi, N.: Molecular epidemiological study of Rickettsiales bacteria in wild deer and mice in Shizuoka prefecture, Japan., International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, Sapporo, Japan, Sep. 2011

14) 阿戸 学, 安藤秀二, 松村隆之, 川端寛樹, 角坂照貴, 小林和夫. *Orientia tsustugamushi* 株間におけるマウス感染様式および宿主応答の比較解. 第4回日本リケッチア症臨床研究会・第18回リケッチア研究会合同研究発表会. 2012年2月, 大阪

15) 安藤秀二. ズーノーシスとしての偏性細胞内寄生細菌の自然界におけるリスク. 第11回日本バイオセーフティ学会. 2011年12月, 筑波

16) 安藤秀二. 宮古島のつつが虫病の国内外における位置づけと今後の検査対応について. つつが虫病に関する調査報告会. 2012年1月, 沖縄

17) 伊東拓也, 高田伸弘, 藤田博己, 川端寛樹, 安藤秀二, 大竹秀男. 北海道におけるイスカチマダニの再発見. 第56回日本衛生動物学会北日本支部大会. 2011年10月, 札幌

18) 伊東拓也, 高田伸弘, 藤田博己, 川端寛樹, 中本 敦, 赤松達矢, 安藤秀二, 大久保 (佐藤) 梢, 高野 愛, 小笠原由美子. 礼文島におけるマダニ類及びダニ媒介性病原体の調査. 第57回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2011年10月, 山形

19) 花岡希, 藤本嗣人, 島田智恵, 佐藤弘, 椎野禎一郎, 岸本寿男, 岡部信彦. 感染症啓発活動におけるインターネット啓発サイトの活用. 第86回日本感染症学会総会・学術講演会, 2012年4月 (長崎)・予定

20) 岩崎博道, 玉置幸子, 高田伸弘, 矢野泰弘, 田居克則, 池ヶ谷諭史, 高木和貴, 稲井邦博, 上田孝典. Kawasaki型つつが虫病症例の急性期血中サイトカイン濃度と重症度. 第85回日本感染症学会総会. 2011年4月, 東京

21) 岩崎博道. 感染症と免疫応答. 2011年度第1回徳島県医師会感染症講演会. 2011年7月, 徳島

22) 岩崎博道. 発熱性好中球減少症. 抗菌化学療法・感染制御専門領域薬剤師研究会. 2011年8月

23) 及川陽三郎, 藤田博己, 高田伸弘. 各種紅斑熱群リケッチアのアルカリ多糖抗原に対するヒト血清抗体の反応性. 第 63 回日本衛生動物学会大会. 2011 年 4 月, 東京

24) 及川陽三郎, 藤田博己, 高田伸弘. 紅斑熱群リケッチア症の簡易診断用抗原としてのアルカリ抽出多糖体の有用性. 第 52 回日本熱帯医学会総会. 2011 年 11 月, 東京

25) 吳東興, 烏日図, 高娃, 川森文彦, 吉川悠子, 大橋典男. 静岡県野性シカが保有するリケッチア関連細菌群の解析. 第 19 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2011 年 11 月, 広島

26) 御供田睦代, 山本正悟, 北野智一, 平良勝也, 岡野 祥, 宮代 守, 梶山桂子, 石橋哲也, 高野 愛, 安藤秀二, 藤田博己, 高田伸弘. 九州地域のリケッチア症の動向. 第 19 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2011 年 11 月, 広島

27) 御供田睦代, 藤崎隆司, 三谷惟章. つつが虫病の早期診断法の検討ー刺し口(痂皮)からの遺伝子検出ー. 第 70 回日本公衆衛生学会. 2011 年 10 月, 秋田

28) 御供田睦代, 濱田まどか, 吉國謙一郎, 上村晃秀, 湯田充典, 藤崎隆司, 三谷惟章. つつが虫病の早期診断法の検討ー刺し口(痂皮)からの遺伝子検出ー. 第 37 回九州衛生環境技術協議会. 2011 年 10 月, 熊本

29) 御供田睦代, 濱田まどか, 吉國謙一郎, 上村晃秀, 湯田充典, 藤崎隆司, 三谷惟章. つつが虫病の早期診断法の検討ー刺し口(痂

皮)からの遺伝子検出ー. 第 53 回鹿児島県公衆衛生学会. 2011 年 5 月, 鹿児島

30) 御供田睦代, 山本正悟, 安藤秀二, 北野智一, 平良勝也, 岡野 祥, 宮代 守, 梶山桂子, 石橋哲也, 高野 愛, 角坂照貴, 高橋守, 藤田博己, 高田伸弘. 九州地域のリケッチア症の動向. 第 19 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2011 年 11 月, 広島

31) 高娃, 烏日図, 吳東興, 古川英嗣, 吉川悠子, 川森文彦, 大橋典男. Human infection with *Anaplasma phagocytophilum* in Japan. 第 94 回日本細菌学会関東支部総会. 2011 年 10 月, 東京

32) 高橋 守, 三角仁子, 亀田和成, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 平良勝也, 山本正悟, 安藤秀二, 川端寛樹, 北野智一, 岡野 洋, 御供田睦代, 高野 愛, 矢野泰弘, 及川陽三郎, 本田俊郎, 岩崎博道, 平良セツ子, 岸本壽男. 宮古島のつつが虫病患者発生地に生息するカニ寄生ツツガムシ. 第 63 回日本衛生動物学会大会. 2011 年 4 月, 東京

33) 高田 歩, 小林秀司, 都志見有希, 森光亮太, 城ヶ原貴通, 中本敦, 貸谷康宏, 河東重光, 三枝道生, 木田浩司, 岸本壽男. 岡山県産ヌートリアに見られたマダニ類. 第 66 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2011 年 10 月, 金沢

34) 高田 歩, 織田銃一, 清水慶子, 城ヶ原貴通, 中本 敦, 森光亮太, 大島有理, 木田浩司, 岸本壽男, 小林秀司. 中国地方 2 例のツキノワグマに見られたマダニ類. 第 19 回ダ

ニと疾患のインターフェイスに関するセミナー。2011年11月，広島

35) 高田伸弘，山本正悟，平良勝也，高橋 守，藤田博己。日本の新たな恙虫病感染環－日本列島西端地域の宮古列島で発見されたラット属とデリーツツガムシの浸淫－。第63回日本衛生動物学会大会。2011年4月，東京

36) 高田伸弘，藤田博己，高橋 守，成田 雅。東北地方南半部において恙病患者発生と関連するタテツツガムシの分布相，特に福島県南部から栃木県北部の状況。第63回日本衛生動物学会大会。2011年4月，東京

37) 高田伸弘。雪国の雄，太毛恙虫や荒砥恙虫を忘れてはならない－従来の資料からの提言－。第56回日本衛生動物学会北日本支部大会。2011年10月，札幌

38) 高田伸弘，川端寛樹，高橋 守，中本 敦。乗鞍のコウモリとマルヒメダニ。第19回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー。2011年11月，広島

39) 高田伸弘，川端寛樹，高橋 守，中本 敦。中部山岳乗鞍高原のクビワコウモリのコロニーに見出されたコウモリマルヒメダニの概況。第66回日本衛生動物学会西日本支部大会。2011年10月，金沢

40) 高野 愛，石畝史，増澤俊幸，井上智，Sergey E. Tkachev，荻和宏明，Viacheslav G. Morozov，矢野泰弘，高田伸弘，藤田博己，Xiaohang Ma，川端寛樹。欧州型 *Borrelia* の大陸分布に関する調査研究。第57回日本衛生動物学会北日本支部大会。2011年10月，

山形

41) 高野 愛，関塚剛史，黒田誠，大西真，川端寛樹。マダニ媒介性の新型ボレリア *Borrelia turcica* の比較ゲノム解析。第63回日本衛生動物学会大会。2011年4月，東京

42) 高野 愛，坪川理美，DeMar Taylor，川端寛樹。マダニとボレリアの共種分化説におけるパラダイム・シフト。第64回日本衛生動物学会大会。2012年3月，上田

43) 高野 愛，藤田博己，角坂照貴，高橋守，山内健生，大西真，川端寛樹。日本国内に生息するマダニのミトコンドリア 16S rRNA。データベース構築とマダニ遺伝子同定の試み。第63回日本衛生動物学会大会。2011年4月，東京

44) 忽那賢志，笠原敬，高野 愛，大西真，川端寛樹。ウズベキスタンからの輸入回帰熱の1例。第63回日本衛生動物学会大会。2011年4月，東京

45) 忽那賢志，笠原敬，三笠桂一，高野 愛，川端寛樹。本邦初の回帰熱症例。第85回日本感染症学会総会。2011年4月，東京

46) 佐藤 梢，後藤みなみ，村井厚子，柳井徳麿，高野 愛，川端寛樹。猟犬における抗ライム病ボレリア抗体の保有状況。第153回日本獣医学会学術集会。2012年3月，大宮

47) 佐藤寛子，柴田ちひろ，佐藤了悦，斎藤博之，安部真理子，千葉真知子，高橋 守，藤田博己，角坂照貴，高田伸弘，川端寛樹，安藤秀二，高野 愛。秋田県の著名観光スポ

ットにおけるアカツツガムシ生息状況調査。
第 56 回日本衛生動物学会北日本支部大会。
2011 年 10 月，札幌

48) 阪口直也，中村(内山)ふくみ，小林謙一郎，岩淵千太郎，安藤秀二，高崎智彦，小泉信夫，松岡裕之，大西健児。タイから帰国後，ショック，呼吸不全を合併した重症発疹熱の 1 例。第 60 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 58 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。2011 年 10 月，山形

49) 山内健生，佐藤雅彦，伊東拓也，藤田博己，高田伸弘，川端寛樹，安藤秀二，坂田明子，高野 愛。利尻島のマダニ相とマダニ保有病原微生物。第 63 回日本衛生動物学会大会。2011 年 4 月，東京

50) 山内健生，藤田博己，大脇 淳，金子洋平，上野裕介，高田伸弘。佐渡島のマダニ相と保有リケッチア調査。第 66 回日本衛生動物学会西日本支部大会。2011 年 10 月，金沢

51) 小笠原由美子，伊東拓也，藤田博己，安藤秀二。北海道日高地方で採取されたオオトゲチマダニから分離されたリケッチアの分子生物学的解析。第 57 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会。2011 年 10 月，山形

52) 小川基彦，内山恒夫，安藤秀二。抗菌薬によるつつが虫病リケッチアおよび Q 熱リケッチアの細胞培養系からのマイコプラズマ汚染の除去。第 85 回日本細菌学会総会，2012 年 4 月，長崎（予定）

53) 松本高太郎，竹内俊彦，猪熊 壽。北

海道の飼育犬からの *Rickettsia felis* 近縁種の検出。第 151 回日本獣医学会。2011 年 5 月，東京

54) 森田裕司，藤田博己。和歌山県において脳症の併発が強く疑われた日本紅斑熱の重症例。第 85 回日本感染症学会総会。2011 年 4 月，東京

55) 水沼廣，吉田典行，藤田博己，川端寛樹，高野 愛，安藤秀二，小笠原由美子。福島県でライム病病原体を検出し得たマダニ刺咬症の 1 例。第 57 回日本衛生動物学会北日本支部大会。2011 年 10 月，山形

56) 赤松達矢，高瀬欽庸，青山信子，馬原文彦，藤田博己。日本紅斑熱感染推定地におけるマダニ調査事例。第 19 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー。2011 年 11 月，広島

57) 川端寛樹，高野 愛，伊東拓也，石畝 史，高田伸弘，矢野泰弘，中尾 稔，増沢俊幸，藤田博己。多領域 DNA 配列解析によって推定された国内におけるライム病ボレリア病原体 *Borrelia garinii* の維持・伝播経路。第 56 回日本衛生動物学会北日本支部大会。2011 年 10 月，札幌

58) 川端寛樹，高野 愛，中尾稔，増沢俊幸，高田伸弘，矢野泰弘，石畝史，藤田博己，伊東拓也，及川陽三郎，川森文彦，熊谷邦彦，三上稔之，花岡希，安藤秀二，本田尚子，カイルテイラー，坪田敏男，今内覚，渡邊治雄，大西真。マダニ媒介性のライム病病原体 *Borrelia garinii* の維持伝播サイクルに関する研究。第 56 回日本衛生動物学会北日本支

部大会. 2011
年 10 月, 札幌

59) 川端寛樹, 多田有希, 高野 愛, 佐藤梢,
大西真. 我が国におけるライム病の現状と疫
学解析. 第 153 回日本獣医学会学術集会.
2012 年 3 月, 大宮

60) 大竹秀男, 小林 萌, 藤田博己. 都市公
園におけるマダニ相とその生息実態. 第 63
回日本衛生動物学会大会. 2011 年 4 月, 東京

61) 大竹秀男, 小林 萌, 藤田博己. 仙台市
内の公園・緑地におけるマダニ類の特徴. 第
57 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日
本支部合同大会. 2011 年 10 月, 山形

62) 大迫英夫, 古川真斗, 徳岡英亮, 松尾繁,
松本一俊, 八尋俊輔, 本田俊郎, 山本正悟,
安藤秀二, 齋藤亨, 藤澤哲郎, 猪熊壽, 原田
誠也. 熊本県における日本紅斑熱の疫学調査.
第 60 回九州地区獣医公衆衛生学会, 2011 年
10 月, 長崎

63) 中本 敦, 木田浩司, 森光亮太, 小林秀
司, 岸本壽男. ダニ媒介性感染症のリスク評
価に対する小型齧歯類の生態学的研究からの
アプローチ (予報). 日本動物学会・日本植物
学会・日本生態学会 生物系三学会 中四国支
部大会 (香川大会). 2011 年 5 月, 高松

64) 中本 敦, 木田浩司, 森光亮太, 小林秀
司, 岸本壽男. ダニ媒介性感染症のリスク評
価への小型哺乳類の生態学的研究からのアプ
ローチ. 日本哺乳類学会 2011 年度大会. 2011
年 9 月, 宮崎

65) 中本 敦, 木田浩司, 森光亮太, 小林秀
司, 岸本壽男. 岡山県内の小型齧歯類におけ
るリケッチア侵淫調査. 第 4 回日本リケッチ
ア症臨床研究会・第 18 回リケッチア研究会
合同研究発表会. 2012 年 2 月, 大阪

66) 中本 敦, 木田浩司, 森光亮太, 小林秀
司, 岸本壽男, 小型哺乳類の生態学的研究か
らの日本紅斑熱のリスク評価へのアプローチ.
第 19 回ダニと疾患のインターフェイスに関
するセミナー. 2011 年 11 月, 広島

67) 中本 敦, 木田浩司, 森光亮太, 小林秀
司, 岸本壽男. 日本紅斑熱のリスク評価への
アカネズミの生態学的研究からのアプローチ.
第 66 回日本衛生動物学会西日本支部大会.
2011 年 10 月, 金沢

68) 仲田かおり, 石垣里紗, 高橋阿起子, 堀
川達弥, 山本剛, 安藤秀二. 日本紅斑熱の 1
例. 第 62 回皮膚科学会中部支部学術集会.
2011 年 11 月, 四日市

69) 猪熊 壽, 藤塚淳史, 前谷茂樹, 増澤俊
幸, 川端寛樹. 北海道における犬の *Borrelia*
garinii 感染症の発生. 第 64 回日本衛生動物
学会大会. 2012 年 3 月, 上田

70) 田居克規, 岩崎博道, 池ヶ谷諭史, 上田
孝典. 抗菌薬によるサイトカイン産生修飾作
用の検討. 第 85 回日本感染症学会総会. 2011
年 4 月, 東京

71) 田居克則, 岩崎博道, 池ヶ谷諭史, 高木
和貴, 上田孝典. 抗菌薬によるサイトカイン
産生修飾作用を介したリケッチア感染症の生
体防御. 第 59 回日本化学療法学会総会.

2011年6月, 札幌

72) 藤田博己, 赤松達矢, 高瀬欽庸, 矢野泰弘, 高田伸弘, 及川陽三郎, 川端寛樹, 安藤秀二. 香川県におけるマダニ相とマダニ保有リケッチア調査の2007年から2011年までの成績. 第66回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2011年10月, 金沢

73) 藤田博己, 高田伸弘, 藤田信子, 及川陽三郎, 安藤秀二, 川端寛樹, 大竹秀男. 青森県と岩手県におけるイスカチマダニの生息調査. 第56回日本衛生動物学会北日本支部大会. 2011年10月, 札幌

74) 藤田博己, 青山信子, 赤松達矢, 高田伸弘, 矢野泰弘, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野愛, 小笠原由美子, 伊東拓也, 大竹秀男. 北日本のマダニ類からのリケッチア検出状況 - 1993年から2011年の分離例からの概観 -. 第19回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2011年11月, 広島

75) 藤田博己, 青山信子, 大竹秀男, 安藤秀二. 宮城県仙台平野におけるイスカチマダニの2011年度の生息調査. 第57回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2011年10月, 山形

76) 藤田博己, 赤松達矢, 高瀬欽庸, 矢野泰弘, 高田伸弘, 及川陽三郎, 川端寛樹, 安藤秀二. 香川県におけるマダニ相とマダニ保有リケッチア調査の2007年から2011年までの成績. 第66回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2011年10月, 金沢

77) 藤田博己, 矢野泰弘, 高田伸弘. 長崎県

五島列島のマダニ相とマダニ保有リケッチアの検索 - 2006年の調査結果 -. 第63回日本衛生動物学会大会. 2011年4月, 東京

78) 内山恒夫, 小川基彦, 藤田博己. 非病原性紅斑熱群リケッチアの哺乳動物細胞における増殖抑制. 第85回日本細菌学会総会, 2012年4月, 長崎 (予定)

79) 馬原文彦, 赤松達矢, 高瀬欽庸, 青山信子, 藤田博己. 発熱のみで患者さんが診断した日本紅斑熱の1例. 第19回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2011年11月, 広島

80) 馬原文彦, 藤田博己, 赤松達矢, 矢野泰弘, 藤田信子, 川端寛樹, 小泉信夫. 徳島県大島における日本紅斑熱媒介マダニ調査. 第63回日本衛生動物学会大会. 2011年4月, 東京

81) 馬原文彦, 藤田博己, 赤松達矢, 矢野泰弘, 藤田信子, 川端寛樹, 小泉信夫. 徳島県大島における日本紅斑熱媒介マダニ調査. 第63回日本衛生動物学会大会. 2011年4月, 東京

82) 北野智一, 平良勝也, 岡野祥, 角坂照貴, 藤田博己, 高田伸弘, 高橋守, 安藤秀二, 高野愛, 川端寛樹, 御供田睦代, 本田俊郎, 林哲也, 山本正悟. 宮古島の恙虫病に関する調査 - 池間島のネズミとツツガムシから検出された病原体 -. 第4回日本リケッチア症臨床研究会・第18回リケッチア研究会合同研究発表会. 2012年2月, 大阪

83) 北野智一, 平良勝也, 岡野祥, 角坂照貴,

藤田博己, 高田伸弘, 高橋守, 安藤秀二, 高野愛, 川端寛樹, 御供田睦代, 本田俊郎, 林哲也, 山本正悟. 宮古島の恙虫病に関する調査—池間島のネズミとツツガムシから検出された病原体—. 第 19 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2011 年 11 月, 広島

84) 北野智一, 平良勝也, 岡野祥, 角坂照貴, 藤田博己, 高田伸弘, 高橋守, 安藤秀二, 高野愛, 川端寛樹, 御供田睦代, 本田俊郎, 林哲也, 山本正悟. 宮古列島における *Orientia tsutsugamushi* の分離および遺伝子解析. 第 64 回日本衛生動物学会大会. 2012 年 3 月, 上田

85) 本井祐太, 鈴木正嗣, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野愛, 猪熊壽, 田原研司, 金森弘樹. 島根半島部のイノシシ再分布による紅斑熱群リケッチアへの影響. 第 153 回日本獣医学会学術集会. 2012 年 3 月, 大宮

86) 本井祐太, 鈴木正嗣, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野愛, 猪熊壽, 辻知香, 松山亮太. 島根県美郷町のニホンイノシシに関する紅斑熱群リケッチアの疫学的役割. 人獣共通感染症の戦略的国際疫学研究の推進と若手研究者の実践的育成・公開シンポジウム. 2011 年 12 月, 藤沢

87) 本井祐太, 鈴木正嗣, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野愛, 猪熊壽. 島根県美郷町のニホンイノシシと紅斑熱群リケッチアとの関連性について. 第 151 回日本獣医学会学術集会. 2011 年 3 月, 東京

88) 木田浩司, 中本 敦, 葛谷光隆, 濱野雅

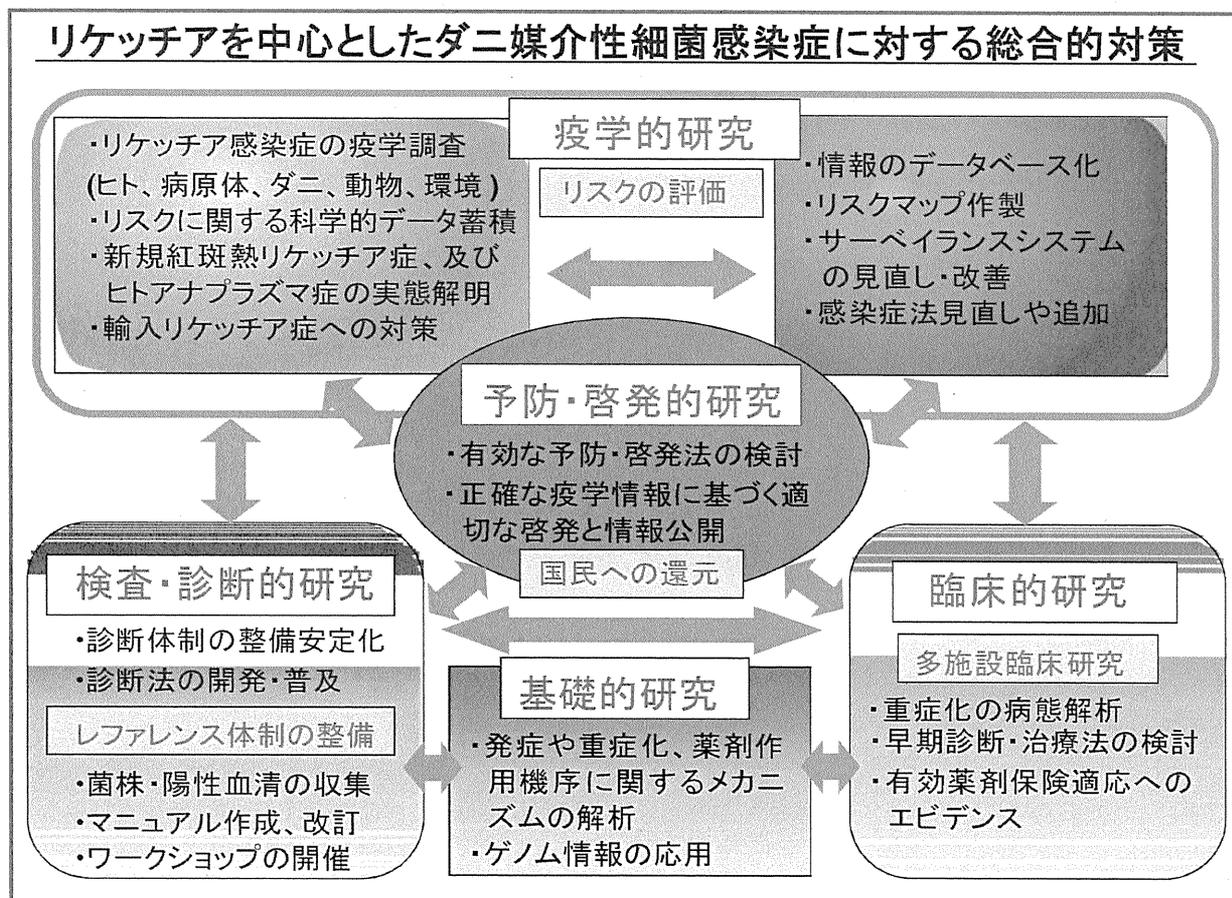
子, 藤井理津志, 岸本壽男, 城ヶ原貴道, 小林秀司. 岡山県のヌートリアにおけるリケッチア保有状況調査. 日本衛生動物学会. 2011 年 4 月, 東京

89) 木田浩司, 中本 敦, 岸本壽男. 2011 年 5 月に赤磐市で発生した日本紅斑熱の感染源調査. 第 4 回日本リケッチア症臨床研究会・第 18 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2012 年 2 月, 大阪

90) 矢野泰弘, 藤田博己, 高田伸弘. 新型走査電顕像によるマダニ幼虫の有用分類の試行. 第 63 回日本衛生動物学会大会. 2011 年 4 月, 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし



図のごとく、リケッチアを中心としたダニ媒介性細菌感染症に対する総合的対策を検討するため、リケッチア症やベクターの実態調査による疫学的研究、臨床的研究、検査・診断的研究、基礎的研究、予防・啓発的研究を、各研究者間で広く連携をとりつつ、同時に有機的に研究を進めてきた。これまで確実に実績

を積み上げてきたが、未だ不明な点や、実施すべき点が多く残されており、今後さらに検討を進めていく必要がある。特にレファレンス体制の整備については、今後の本格的な実施に向けた準備段階にあり、さらなる推進が望まれる。

II 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表(書籍)

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
阿戸 学	リケッチア	桂義元、河本宏、小安重夫、山本一彦	免疫の事典	朝倉書店	東京都	2011	431
内山恒夫	リケッチア —紅斑熱群—	新居士郎、倉田毅、林 英生、本田武司、小田 紘、松本 明	病原細菌・ウイルス図鑑	北海道大学出版会	北海道	in press	
安藤秀二	リケッチア	平松啓一監修、中込治、神谷茂編集	標準微生物学 第11版	医学書院	東京都	in press	
岸本壽男	リケッチア	松島俊晴、仁木芳人、尾内一信、寺田喜平	診療に役立つ学べる感染症	診断と治療社	東京都	2012	20-25

研究成果の刊行に関する一覧表(雑誌)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
玉置幸子、那須征太郎、玉置信彦、辻薫、山西康仁、水本博章、西本英一郎、東冬彦、玉置英人、永井勲、森田祐司、高田伸弘	郷土病(ダニ媒介)への取り組み	感染と消毒	vol.16	38-42	2009
岩崎博道、高田伸弘、上田孝典	呼吸器症候群(第2版) —その他の呼吸器疾患を含めて— リケッチア肺炎(つづが虫病、日本紅斑熱、Q熱)	別冊日本臨床	No.8	253-257	2008
SADI組織委員会	第18回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナーの議事録 Proceedings of 18th Seminar on Acari-Diseases Interface 2010 in Sadogashima	大原総合病院年報別刷	第50巻	41-60	2010
島津幸枝、谷澤由枝、高尾信一、田原研司、藤田博己、矢野泰弘、高田伸弘	広島県内の野鼠におけるつづが虫病リケッチア侵淫状況	広島県立総合技術研究所保健環境センター研究報告	No.17	15-20	2009
高田伸弘	病気のはなし 最近のリケッチア症	検査と技術	vol.39	no.4	2011
Hisashi Inokuma, Hironori Matsuda, Leo Sakamoto, Michihito Tagawa, and Kotaro Matsumoto	Evaluation of <i>Rickettsia japonica</i> Pathogenesis and Reservoir Potential in Dogs by Experimental Inoculation and Epidemiologic Survey	CLINICAL AND VACCINE IMMUNOLOGY	18	161-166	2011
Mariko Sashika, Go Abe, Kotaro Matsumoto, and Hisashi Inokuma	Molecular Survey of Rickettsial Agents in Feral Raccoons (<i>Procyon lotor</i>) in Hokkaido, Japan	Jpn.J.Infect	63	353-354	2010
Leo Sakamoto, Yasuaki Ichikawa, Yoshimi Sakata, Kotaro Matsumoto, and Hisashi Inokuma	Detection of <i>Anaplasma bovis</i> DNA in the Peripheral Blood of Domestic Dogs in Japan	Jpn.J.Infect	63	349-352	2010
Mariko Sashika, Go Abe, Kotaro Matsumoto, and Hisashi Inokuma	Molecular Survey of <i>Anaplasma</i> and <i>Ehrlichia</i> Infections of Feral Raccoons (<i>Procyon lotor</i>) in Hokkaido, Japan	VECTOR-BORNE AND ZOOLOGICAL DISEASES	00	1-7	2010
富岡 鉄平、島田 智恵、藤本 嗣人、松井 珠乃、佐藤 弘、八幡 裕一郎、橘 とも子、岡部 信彦	日本紅斑熱発生地域および近隣の発生が少ない地域における知識および受診行動	感染症学雑誌	第85巻 2号	1-4	2011
Tabara K, Kawabata H, Arai S, Itagaki A, Yamauchi T, Katayama T, Fujita H, Takada N.	High incidence of rickettsiosis correlated to prevalence of <i>Rickettsia japonica</i> among <i>Haemaphysalis longicornis</i> tick.	Journal of Veterinary Medical Science.	72		2010
Ando S, Kurosawa M, Sakata A, Fujita H, Sakai K, Sekine M, Katsumi M, Sakai W, Yano Y, Takada N, Takano A, Kawabata H, Hanaoka N, Watanabe H, Kurane I, Kishimoto T.	Human <i>Rickettsia heilongjiangensis</i> infection, Japan.	Emerging Infectious Diseases	16	1306-1308	2010
山内健生、高野 愛、坂田明子、馬場俊一、奥島雄一、川端寛樹、安藤秀二.	タカサゴキラマダニによる人体刺症の5例.	日本ダニ学会誌	19	15-21	2010
森下綾子、谷口裕子、大滝倫子、川端寛樹.	ワシントンDCで刺傷し、帰国後発症したライム病の1例.	臨床皮膚科	64(4)	343-346	2010
Murase Y, Konnai S, Hidano A, Githaka W.N, Ito T, Takano A, Kawabata H, Ato M, Tajima T, Tajima M, Onuma M, Murata S and Ohashi K.	Molecular detection of <i>Anaplasma phagocytophilum</i> in cattle and <i>Ixodes persulcatus</i> ticks.	Vet. Microbiol.	149	504-507	2011

Matsumura T, Ato M, Ikebe T, Ohnishi M, Watanabe H, Kobayashi K.	Interferon- γ -producing immature myeloid cells confer protection against severe invasive group A Streptococcus infections.	Nat. Commun.	3	678	2012
Gaowa, Wuritu, Wu, D., Yoshikawa, Y., Ohashi, N., Kawamori, F., Sugiyama, K., Ohtake, M., Ohashi, M., Yamamoto, S., Kitano, T., Takada, N., Kawabata, H.	Detection and characterization of p44/msp2 transcript variants of <i>Anaplasma phagocytophilum</i> from naturally infected ticks and wild deer in Japan	Jpn. J. Infect. Dis.	65	79-83	2012
Matsumoto, K., Takeuchi, T., Yokoyama, N., Katagiri, Y., Ooshiro, M., Zakimi, S., Gaowa, Kawamori, F., Ohashi, N., Inokuma, H.	Detection of the new <i>Ehrlichia</i> species closely related to <i>Ehrlichia ewingii</i> from <i>Haemaphysalis longicornis</i> in Yonaguni Island, Okinawa, Japan	J. Vet. Med. Sci.	73	1485-1488	2011
Sen, E., Uchijima, Y., Kadosaka, T., Ohashi, N., Okamoto, Y., Fukui, T., and Masuzawa, T.	Molecular detection of <i>Anaplasma phagocytophilum</i> and <i>Borrelia burgdorferi</i> in Ixodes ricinus ticks from Istanbul metropolitan area and rural Trakya (Thrace) region of Northwestern Turkey	Ticks Tick Borne Dis.	2	94-98	2011
Uchiyama, T., Kishi, M., and Ogawa, M.	Restriction of the growth of a nonpathogenic spotted fever group rickettsia	FEMS Immunology and Medical Microbiology	64(1)	42-47	2012
Uchiyama, T., Ogawa, M., Kishi, M., Yamashita, T., Kishimoto, T., and Kurane, I.	Restriction of the growth of typhus group rickettsiae in tick cells	Clinical Microbiology and Infection	15 (Suppl.2)	332-333	2009
Ogawa, M., Shinkai-Ouchi, F., Uchiyama, T., Hagiwara, K., Hanada, K., Kurane, I, and Kishimoto, T.	Shotgun proteomics of <i>Orientia tsutsugamushi</i>	Clinical Microbiology and Infection	15 (Suppl.2)	239-240	2009
Chan, Y.G.Y., Cardwell, M.M., Hermanas, T.M., Uchiyama, T., and Martinez, J.J.	Rickettsial outer-membrane protein B (rOmpB) mediates bacterial invasion through Ku70 in an actin, c-Cbl, clathrin and caveolin 2-dependent manner	Cellular Microbiology	11(4)	629-644	2009
富岡鉄平、島田智恵、藤本嗣人、松井珠乃、佐藤弘、八幡祐一郎、橋とも子、岡部信彦	日本紅斑熱発生地域および近隣の発生が少ない地域における知識および受診行動	感染症学雑誌	85	180~183	2011
松井珠乃、藤本嗣人、佐藤弘、安井良則、岡部信彦	つつが虫病および日本紅斑熱について発生頻度が異なる地域での市民医学講座参加者における認知度比較	感染症学雑誌	84(1)	48~51	2010
Matsui T, Kobayashi J, Satoh H, Fujimoto T, Okabe N, Ando S, Kishimoto T, Yamamoto S.	Surveillance, recognition, and reporting of Tsutsugamushi disease (scrub typhus) and Japanese spotted fever by general practice clinics in Miyazaki Prefecture, determined by questionnaire survey in 2007	J Infect Chemother.	15(4)	269-272	2009
Fujisawa T, Kadosaka T, Fujita H, Ando S, Takano A, Ogasawara Y, Kawabata H, Seishima M.	<i>Rickettsia africae</i> Infection in a Japanese Traveller with Many Tick Bites.	Acta Dermato-Venereologica.			(In press)
Tamakuma K, Mizutani Y, Inada K, Miyamoto K, Utsunomiya H, Mahara F, Tsutsumi Y ほか2名	Histopathological diagnosis of Japanese spotted fever using formalin-fixed, paraffin-embedded skin biopsy specimens Usefulness of Immunohistochemistry and real-time PCR analysis	Clin Microbiol Infect	Available on line		2011
玉熊桂子, 堤 寛	リアルタイムPCRによるホルマリン固定パラフィン包埋標本からの <i>Rickettsia japonica</i> DNAの検出: 基礎的検討	藤田学園医学会誌	35(1)	25-27	2011
馬原文彦, 藤田博己	野生動物と動物由来感染症: つつが虫病と日本紅斑熱	公衆衛生	75(1)	31-35	2011

Shiogama K, Mizutani Y, Inada K, Tsutsumi Y, ほか5名	Hepatitis C virus infection in a Japanese leprosy sanatorium for the past 67 years	J Med Virol	82	556-561	2010
堤 寛	劇症型感染症の病理	法医病理	16	69-82	2010
堤 寛	感染症における病理診断の役割	病理と臨床	28(4)	360-366	2010
馬原文彦	感染症法と保険診療: 日本紅斑熱、つ つが虫病の臨床と保険診療の課題	医学のあゆみ	232(8)	867-870	2010
馬原文彦	感染症法と保険診療: 感染症法第四類 感染症の検査、治療薬の保険適用につ いて	医学のあゆみ	231(12-13)	1185-1186	2009
高田伸弘	医ダニ類の形態と病害	モダンメディア	57(6)	185-188	2011
高田伸弘	病気のはなし -最近のリケツチア症-	検査と技術	39(4)	262-268	2011
Takano, A., Nakao, M., Masuzawa, T., Takada, N., Yano, Y., Ishiguro, F., Fujita, H., Ito, T., Ma, X., Oikawa, Y., Kawamori, F., Kumagai, K., Mikami, T., Hanaoka, N., Ando, S., Honda, N., Taylor, K., Tsubota, T., Konnai, S., Watanabe, H., Ohnishi, M. and Kawabata, H.	Multilocus sequence typing implicates rodents as the main reservoir host of human-pathogenic <i>Borrelia garinii</i> in Japan.	Journal of Clinical Microbiology	49(5)	2035-2039	2011
安藤秀二	最近の輸入発疹熱事例について	人と動物の共通 感染症研究会の ニューズレター	10	4-6	2011
岸本壽男	リケツチア症の新たな展開	感染・炎症・免疫	41(2)	62-64	2011
川上万里、梅川康弘、田原研司、木田浩司、 藤井理津志、岸本壽男	日本紅斑熱の1例: 岡山県初事例	肝臓	51(12)	714-721	2010
岸本壽男、木田浩司	リケツチア感染症の現状と課題	感染症	41(5)	157-168	2011
岸本 壽男、木田浩司、葛谷光隆、浜野雅子、 藤井理津志	クラミジア、リケツチア	臨床と微生物	36(増刊 号)	581-587	2009
高田伸弘、岸本壽男、岩崎博道、上田孝典、 安藤秀二、大橋典男、矢野泰弘、田原研司、 山内健生、藤田博己	ダニ関連細菌感染症、特にリケツチア症 の新たな展開	感染症学雑誌	84(臨時増 刊号)	138-143	2010

